

革新的ローコード開発技術でデジタルトランスフォーメーション実現ソリューションを提供する AgilePoint社 (アジルポイント株式会社)

AgilePoint社は2003年米国シリコンバレーで創業。世界各国に拠点をもち、東京にもオフィスを構える。SAP・CRM・PLMなどに関連する各業務プロセスのフローをアプリケーションレベルで統合し、システム開発スピードや柔軟度を向上させるプラットフォームソリューションを提供している。AIやIoTの普及でますます要求が幅広く、変化の激しい業務用アプリケーション業界でのビジネスモデルと今後の事業展望について、共同創業者である夏鵬飛執行長にお話を伺った。



AgilePoint社 夏鵬飛執行長

—貴社事業の概要について

AgilePoint社の主な事業はデジタルトランスフォーメーション(以下DX)を実現するソリューションをプラットフォームやアプリ製品として提供するものです。ビジネス用システムアプリ開発のハードルを下げる画期的なソリューションを提供しています。2003年にアメリカシリコンバレーで創業し、台湾、日本にも拠点を持っています。またシステムアプリ開発に関する各種研修、コンサルティングも行っています。応用可能な産業分野はセールス、マーケティング、製造、人事、財務会計など、あらゆる産業分野・企業のあらゆる部門のシステムに提供可能で、アプリケーションが簡単に開発できるよう設計されています。

—DXソリューション事業について

コンシューマー向けアプリケーションでは既にかなり普及しデジタル化が進みましたが、企業向けや公共事業を含む産業用途のデジタル化導入は、現状まだ発展途上の段階です。一方、企業システムを取り巻く環境は、ビッグデータ・AIやIoT普及などのデジタル新技術の出現や普及スピード、市場変化スピードの加速により激しく変化しており、そういった要求にスピーディーに答えていくことが急務となっています。DXの実現には非常に多くのアプリケーション開発が必要となるため、現在開発に携わるソフトウェア開発者が不足している状況ですが、日本では少子化の影響もあり、人材不足は一層

深刻な状況です。さらに、DXは革新的であることが求められますが、IT人材自らが革新的なアイデアをどんどん出してDXイノベーションを起こすことが今の環境では難しいといった背景もあり、企業システムでのDXには課題が数多く存在しています。そこで、こうした新たな時代の要求に答えていくために、DX実現のための新時代の枠組みが必要であるとAgilePointは考えました。

伝統的な開発手法が抱える問題のひとつは、専門のIT人材によるコードを使った開発が必須であることから、開発に非常に長い時間がかかってしまうというものです。AgilePointが提供する新しい開発手法では、従来のプログラミングに必須であったコードの必要性を画期的に低減し、ローコードでのアプリケーション開発を可能にしています。ローコード開発は、専門技術をもつエンジニアを特に必要とせず、シチズンデベロッパー、つまり各部門の非技術スタッフによるアプリ開発も可能となります。

実は、コードによる開発は、IoTやAIのシステム開発には適しません。IoTデバイスは24時間稼働しているため、基本的にメンテナンスのためのオフライン時間の設定ができませんし、AIは新たな技術が次々生まれてくるため、絶えずアプリケーションも変化できる形態が必要だからです。さらに、DX推進時によく直面する問題が、既に運用中の既存システムの扱い方です。老朽化、複雑化した既存のレガシーシステムの高コスト構造はDX推進を妨げるものですが、AgilePoint社のソ

台湾トップ企業

リユースは、バックグラウンドで既存システムが稼働したままUX改良版を即時更新し持続的なシステム運用を可能にします。

AgilePoint社のソリューションで開発作業をする具体的な操作方法は非常にフレンドリーなもので、600種以上のツールをちょうどレゴブロックのように組み合わせてドラッグアンドドロップ操作で機能組み込みの開発を行います。アプリケーション操作画面をWebサイトのようにデザインすることもできますし、メンテナンス作業も簡単にできるように作られています。入札制度で従来型ソフト開発を進める場合と比較して、5-10社程度の業者検討の手間やコストを省略することができます。

ある日本の顧客の事例では、過去にERPやPLMのソリューションプロバイダを切り替えたが結局改善に繋がらなかったという問題を抱えていましたが、AgilePoint社ソリューションを導入することでこの問題を解決しました。他の顧客も、社内システムで従来はおよそ10,000ものアプリを運用していましたが、AgilePoint社ソリューションに切り替えることで、2年間かけてアプリ数を3,000程度まで削減することに成功しています。他にも実績として、台湾国内では多数の金融機関に採用されていますし、アメリカでは、地方自治体での導入実績もあります。非常に広範囲にわたる業務を行う産業や企業内で運用するアプリケーションは、ビジネスシナリオがダイナミックで従来型のコードによるアプリ開発で対応するのは困難なため、AgilePoint社ソリューションはこういった分野で特に歓迎されています。

— 貴社の日本での事業現況について

日本企業とのパートナーシップや、上述のようなビジネス実績もありますが、日本のビジネスにはまだまだ可能性があると感じています。AgilePoint社の世界全体の顧客のうち、製造業が17%を占めています。例えば台湾国内では、台湾の製造業において少量多品種カスタム化要求に応える新時代の「マス・カスタマイゼーション」のハードウェアトレンドに対応するソリューションを研究しているのですが、日本も製造業は主要産業であり、日本も台湾と同様高いポテンシャルを

持っていますので、こういった取り組みは日本の製造業へのアプローチでもシナジー効果があると考えています。日本の東京オフィスでは他にも、日本企業の特徴を理解し、どのようなアプリケーションが日本企業にとってより優れたビジネスバリューを提供できるかをリサーチするなど、さらなるソリューション発展の可能性を探っています。

— 今後の事業展望について

今後の戦略としては、当面はAgilePoint社による新たなプラットフォームAgilePoint NXがBPM市場により一層普及浸透することを目指しています。個人的には日本企業とのお付き合いは1993年以來になります。日本企業への印象は、基礎技術など素晴らしいものを持っていますが、イノベーション分野ではもっとスピードアップが必要と感じます。デジタル・エコノミーは今後も発展していく一方で、政府主導DX推進プログラムなど、先進国各国の中で日本だけ活動が目立たないといった話はよく耳にします。こういった状況でAgilePoint社は日本企業のお役に立てる機会がたくさんあると考えています。より良いビジネスバリューを生み出すアプリケーションシステムがAgilePoint社のソリューションコンセプトです。これからも次世代のBPMソフトウェアのトレンドを牽引していきたいと考えています。

— ありがとうございます

AgilePoint社の基本データ

会社名	AgilePoint, Inc.
副総経理	Mr. Jesse Shiah 夏鵬飛 (執行長及共同創辦人)
設立	2003年
事業内容	デジタルトランスフォーメーション実現のためのプラットフォームおよびアプリケーション開発等

注) 2018年11月の情報による
出所) 公開資料及びヒアリングよりNRI整理